

平成 28 年度 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業  
「白金カップクロスカントリースキー記録会」事業報告書

1 事業実施の背景

「クロスカントリースキーの大雪」の名のもと、11月中旬より多くのスキー団体に利用いただいている大雪青少年交流の家で「日本で最も早いクロスカントリースキー記録会」をコンセプトに8年目をむかえる事業である。

今年度は夏季の大型台風により、交流の家クロスカントリースキーコース上の橋が崩落し、急遽白金模範牧場をお借りして、特設コースで運営することとなった。

また、より良い積雪量や、選手のシーズンインを考慮し、例年より1週間遅い開催日とし、運営を行った。

2 事業趣旨

- (1) 記録会を通して、冬季の健康・体力の増進を図るとともに、参加者の交流を深める。  
整備された特設コースを活用して、クロスカントリースキー選手の基礎体力向上を図るとともに、競技力を高める。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 協力 自衛隊体育学校

5 協賛 株式会社サッポロスキット 大塚製薬

6 事業概要

- ・期日 平成28年12月10日(土)～11日(日)
- ・会場 国立大雪青少年交流の家 白金模範牧場特設コース
- ・対象 クロスカントリースキーをしている方
- ・定員 小学生以上個人及び団体 300名程度

7 目的の達成指標(アウトプット)

(1) 参加人数

【クラシカル】	119名
【フリー】	129名
合計	248名

8 広報

上川管内のスキー少年団及び、スキー部を持つ中学校、高等学校、大学への広報を行った。また、ホテルパークヒルズの支配人に依頼をし、ホテルで合宿をしている団体にも広報を行い、加者の確保に努めた。結果として、本来のターゲット層及び参加者数を確保することができた。

## 9 参加者人員・類型

### 【クラシカル】

小学生 22名 (男18名 女4名)

中学生 0名

一般 97名 (男76名 女21名)

高校18名 大学49名 内韓国チーム 一般1名

合計 男94名 女25名 計119名

### 【フリー】

一般 129名 (男115名 女14名)

※韓国チーム小中学生(男)は5キロに参加

高校31名 大学55名 内韓国チーム 小4名 中7名 高3名 一般2名

※韓国チーム小中学生はオープン参加

合計 男115名 女14名 計129名

総合計 248名

## 10 事業日程・内容

### (1) 日程

12月10日(土)【クラシカルの部】

9:30 小学生の部

9:45 高校生・大学生・一般女子の部

10:00 高校生・大学生・一般男子の部

11:00 小学生の部表彰式

17:00 高校生・大学生・一般男女の部表彰式(ゆーすぴあタイムにて)



12月11日(日)【フリーの部】

9:30 高校生・大学生・一般女子の部

9:50 高校生・大学生・一般男子の部

17:00 表彰式(ゆーすぴあタイムにて)



### (2) 概要・運営のポイント

今年度は、既存のコースではなく、特設コースで記録会を行ったため、不備がないよう、事前から入念に打合せをおこない、会場準備も入念に行った。

## 12 事業の成果

### (1) 事業背景の達成度

選手の良いシーズンインを提供することを考慮し、開催時期を1週間延ばしたことで、選手たちにとっての本大会への良い試走となった。

また、従来のコースではない、特設コースで大会を運営することで、職員がさらにクロスカントリースキーのことを考える良い機会となった。

### (2) 参加者の実際

今回の記録会は、同時期に中学校の合同合宿が開催されていたため、中学校の参加がなかった。また、ユニバーシアードの選考レースもあり、例年よりも大学生の参加が少なかった。

さらに幅広い広報を行うために、上川管内だけではなく全道各地のスキー少年団に広報をしていきたい。

### 1 3 事業の課題

#### (1) 事業の趣旨

今後の課題として、「日本で最も早い記録会」のさらなる定着を目標に、この記録会をもっと多くの競技者に知ってもらう必要がある。そのためには、幅広い広報を行っていくことはもちろん、職員全体でクロスカントリースキーについて、もっと詳しく知る必要があると感じた。

#### (2) 広報等（参加者要請）

次年度以降は、早期の幅広い広報が必要になる。今まで利用がないスキー団体にも広報を行うことで、交流の家をさらに知ってもらう機会にもつなげる。

#### (3) 事業プログラムの展開

小学生にもフリーの参加希望があることがわかった。次年度以降は、小学生の部をクラシカルのみならず、フリーも追加する必要がある。

